

## 25 浦河町におけるプロジェクト研究の成果と課題

### －まとめの討論－

研究所障害福祉研究部 河村宏・八巻知香子・山根耕平

**【研究の特色】** これまで十分に明らかにされていなかった認知・知的障害者と精神障害者の安心・安全に関わる情報技術的支援の方法を明らかにするために、自閉症および統合失調症の方々が被験者としてではなく積極的な共同研究者としてプロジェクトに参加していることが、このプロジェクトの最大の特徴である。現地における現場の具体的問題からニーズを探り当て、それを解決するための技術シーズを幅広く探り、欠けている部分のみを新規に開発することによって、効率よくニーズに応える統合した技術を開発する use case 主導による研究開発手法は、当事者がニーズを積極的に提示して参加することを可能にした。この研究手法の採用により、研究開発成果の地域における検証も当事者の積極的な参加を可能にし、豊富なフィードバックによる更なる改良と、実際の開発成果の活用が研究開発完了以前にも見られる。

**【部内の研究態勢と連携団体】** (○印はグループの主査。部内合計 15 人が参加)

マルチメディア開発 ○河村宏、濱田麻邑、横田恒一、太田順子

自閉症児者支援 ○北村弥生、河村、八巻知香子、濱田、服部いづみ、藤田博子

GIS 開発 ○我澤賢之、山根耕平、河村

浦河住民意識調査 ○八巻、河村、望月美栄子、大久保豪

国際標準化 ○河村、北村、我澤、八巻

総括調整・事務局 ○河村、北村、我澤、八巻、伊野麻衣子、松本恵子、仲野純子

**連携団体**：社会福祉法人浦河べてるの家、浦河町、浦河町東町自治会、社会福祉法人けやきの郷、社団法人日本自閉症協会、財団法人日本障害者リハビリテーション協会、産業技術総合研究所、静岡県立大学、東京大学、横浜国立大学、お茶の水女子大学、CWI (オランダ)、INRIA (フランス)、W3C/SMIL WG、DAISYコンソーシアム (スイス)、ケンタッキー自閉症支援センター、アメリカ自閉症協会等

### 【これまでの研究開発成果】

1. 浦河べてるの家用マルチメディア津波避難マニュアル・プロトタイプを作成
2. 浦河べてるの家、東町自治会で GIS と避難マニュアルを使った津波避難訓練を実施
3. 津波避難マニュアル編集作成に必要なオーサリングツールと PDA 版表示装置試作
4. 2006 年 11 月 15 日付津波注意報における訓練効果が期待される (分析中)
5. 浦河町役場、自治会、浦河べてるの家の今後の津波避難訓練への協力依頼の意向
6. W3C SMIL2.0->2.1->3.0 によるマルチメディアのアクセシビリティ向上推進
7. Urakawa Project による障害者のニーズをベースにした情報技術開発の国際的推進
8. WSIS 行動計画を通じて障害者が主体的に参加する国際標準技術開発を促進
9. 住民意識の分析による新規開発システムの評価方法の開発に着手

**【今後の課題】** 障害者が地域の人々の安全・安心の推進者になる条件は何か？